

「国際小児がん罹患統計 第3版」の公表

国際的な基準での集計結果による小児がん罹患統計データブックの公表

令和8年6月30日

宮城県立がんセンター

宮城県がん登録室

研究所がん疫学・予防研究部

宮城県がん登録室では、宮城県がん登録管理事業に基づき、宮城県のがん登録情報をとりまとめ、集計及び結果の公表を行っています。このたび、研究所がん疫学・予防研究部の協力を得て、世界の小児がん罹患統計データブック「国際小児がん罹患統計 第3版」の編集作業に参画し、その集計結果が公表されましたので、お知らせいたします。

○「国際小児がん罹患統計」について

国際小児がん罹患統計は、国際がん研究機関(International Agency for Research on Cancer: IARC)と国際がん登録協議会(International Association of Cancer Registries: IACR)が共同で編集・刊行している国際的な小児がん罹患統計データブックで、正式な名称を International Incidence of Childhood Cancer といい、略称を IICC(アイ・アイ・シー・シー)といいます。今回は第3版なので、IICC-3と表記されます。世界の地域単位、または、国単位で実施されているがん登録の罹患データを収集し、編集委員会がデータを精査し、基準を満たしたデータのみが採用され、その結果が公表されます。なお、IACRとIARCは、国際的ながん罹患統計データブックである「5大陸のがん罹患(CI5: Cancer Incidence in Five Continents)」を編集・刊行していますが、その際に収集されたデータを使い、IICCは編集・刊行されています。第1版は、1988年に刊行され、第2版は1998年に刊行されました。第3版は、2011年に研究参加の呼びかけがあり、宮城県では、2012年にデータを提出し、さらに、その後、追加のデータ提出を行ってきました。

IICCについては、次のwebサイトから情報を確認することが出来ます。

➤ International Incidence of Childhood Cancer (IARC)

<https://iicc.iarc.fr/>

○「国際小児がん罹患統計」にデータが採用・公表されることの意義

公表されたがん登録のデータは、国際的な基準を満たした精度の高いデータであり、比較可能性が担保されているデータということになります。そのため、データが採用され、公表されることは、そのがん登録のデータの精度の高さを証明することになります。このような精度の高いデータを有する宮城県のがん登録のデータは、宮城県のがん対策や宮城県を対象としたがん研究を進める上で活用されています。改めて、関係者の皆さまのご協力に対して、感謝申し上げます。

るとともに、今後も高い精度でデータを収集して参りたいと考えております。

また、宮城県のデータが採用され、公表されることで、日本全体としてのデータ件数も増え、集計結果の信頼性が高まることにつながると同時に、集計結果についても、宮城県を含む集計結果として利用することが可能になります。

○ 今回の集計結果

今回、世界 82 か国から 308 のがん登録のデータが採用されました。日本からは、宮城県など 8 府県のデータが採用されました。集計結果については、IARC の web サイトで公表されています。

➤ Results (International Incidence of Childhood Cancer)

[IICC: Results](#)

○ 今後の解析

今後、がん種別に関する集計などが行われ、順次、論文として公表される見込みです。